

R6年度

園 評 価

(北幼保園)

【園目標】 丈夫な体でおもいやりのある子はぐくみの輪 ふれあいの輪 元気な子・考える子・優しい子	【前年度の成果と課題】 ・外部講師から学んだことも活用しながら、1日1回は体を動かす活動をどの学年も取り入れていく。 ・個の特性や育ちを保育者間で情報共有し、アドバイザーや保護者と連携し、子どもにとって無理のない活動、援助をしていく。 ・保育者が楽しく無理なく保育ができるように、研修の推進や互いの保育を認め合う場をもち、協力体制と協力意識を高める。 ・保護者により園を知ってもらえるよう、保育参加や清掃・絵本・散歩ボランティア、懇談会等を計画し、積極的な参加を推進する。
---	---

○保育者 ☆関係者

観 点		短期目標	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
子 ど も へ の 保 育 ・ 教 育	身 体 的 発 達	遊びの中で十分に体を動かし、心身の健やかな発達を促す活動の充実。	3.5	4	○外部講師や研修で学んだことを、隙間時間に意図的に取り入れることができた。 ○朝、園庭でマラソンや体操等の遊びを取り入れ体を動かすことで、子どもが他の活動に向き合う姿勢が変わることを感じる。戸外だけでなく、室内でも朝一番に体を動かす活動を取り入れると良い。 ☆子ども達が冒険の丘を勢いよく走っていくのを見てハラハラしたが、先生方は多少危険なことも経験させてみえることが分かった。 ☆広い園舎の空間を利用して、体づくりが行われていて良い。
	社 会 的 発 達	人と関わる楽しさを味わい、思いを伝え合う活動の充実。	3.5	3.8	○秋に異年齢交流を計画、実践したことで、学年関係なく関わる姿が見られるようになった。 ○自己表出の苦手な子には意図的に関わり、信頼関係を築いていった。 ○未満児保育では、子どもの思いを読み取り伝え返しをしていき思いに寄り添えるような言葉がけを心がけたが、安全保障のため制止する声かけが多くなってしまった。子どもへのより良い声のかけ方について、職員間で常に考えていく。 ☆自分の考えを相手に伝えていくことを大事にしてほしい。困ったことを伝えることができる環境を整えてほしい。 ☆子どもの良さを褒めることが幼保園でも小学校でも大切であるが、行動基準をしっかりとめないと褒められるからやるんだということになる。発達段階に合わせてどうして褒めるのかの理由をしっかりと伝えてほしい。 ☆保育者の位置、目線はもちろん、「言葉だけでなく動作での説明や指示」「子どもの動作を真似することでの価値づけと安心感」「撫でる、手をつなぐ、ハイタッチなどの直接的なコミュニケーション」が子どもの安心感につながっている。
	精 神 的 発 達	子どもが自ら試行錯誤しながら遊びを展開できる環境構成の工夫。	3.3	3.9	○自分で選択して遊べる時間を確保し、季節や興味に合ったものを提供できるよう環境構成していった。 ○子どもの声に耳を傾け、興味関心にあった環境構成を心掛けることができています。 ○さらに遊びが深まるよう、各学年に合ったサークルタイムを位置づけ、環境の再構成をする。 ☆保育者の関わりや、音楽を用いての環境が、子どもの五感に響く指導であった。 ☆子どもたちは否応なくデジタル社会、情報過多社会に取り込まれていく。坂を走る姿、ごっこ遊びでアイスクリームを差し出してくれる姿、歌いながらダンスをする姿、得意げに縄跳びをする姿に、デジタル画面とは真反対の素敵な様子を見ることができとても嬉しかった。
	に 多 様 じ な ニ ー ズ 支 援	保育者間で情報や思いを共有し、可能な限り一人一人に合った援助をする。	3.4	3.8	○アドバイザーや療育施設等との連携により、個々の理解に繋がり、より良い支援を探ることができた。そのことが保護者の心の安定にも繋がっている。 ○保育者間の思いのずれや保育観の違い等からすり合わせの難しさを感じる。より深い話し合いをもち、互いの思いを共有していく中で、歩み寄ったりや共通点を見出したりし、方向性を探ると良い。

観 点		短期目標	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
実 施 運 営 体 制	地 域 と の 連 携 保 護 者 ・ 地 域 の 支 援 等 に 対 し て	保護者や地域の方に、 普段の保育や子どもの 姿を知ってもらうこと で、信頼関係を構築す る。	3	3.8	○子どもの姿をより具体的に保護者に伝えるために、iPadを利用し画像・動画を見せるようにした。 ○キッズビューでの配信が遊びの様子を伝えるだけになっている。遊びの過程や援助の意図が伝わる配信ができるよう学び合いたい。 ☆園だより・学年だよりは子どもの様子がとてもよく伝えられている。紙面とデジタル配信との両面を十分活用し、家庭と強いつながりをもてほしい。 ☆子どもの人数以上の保護者がいて皆悩みを抱えている。「ねぎらい」や「認め」「共感」など、肯定的な積み重ねが信頼関係につながり、話をしっかり聞く誠実な対応はとても大切である。日々努力している職員の方がより良く働ける職場環境を整えてほしい。
	研 修 研 究	職員間で子どもの姿や 保育について話し合い 学び合う時間と場所を 確保する。	3.5		○園内研の公開保育では、自分の固定概念に気づいたり、新しい引き出しが増えたりする機会となった。学んだことを保育に活かす意識が高まっている。 ○公開保育が保育者の負担とならないような実施の仕方を工夫する。 ○話し合いの場や時間の確保が難しい学年がある。どの学年も平等に話し合いができる環境が整えられるよう、協力し合える体制づくりが必要である。 ☆職場での心理的安全性とよく言われるが、そのためには風通しの良い職場にする。失敗や自分の弱さを見せたっていい。それを認め合える職場であってほしい。
	危 機 管 理	職員全員が、危機管理 意識をもち、緊急時 には臨機応変に対応で きるようにする。	3.7	3.8	○様々な場面を想定した訓練を行うことができ、保育士が臨機応変に動くことができるようになった。 ○部屋に必要なマニュアルがあるため、参考にして動くことができた。 ○iPadやカメラ等、機器の取扱いや保管に関して、園内の研修の仕方を再考する。（毎月職員会にて実施に変更）
【次年度に向けて】 ・学年内の交流を早くから行い、横のつながりを持ち、子ども同士のかかわりを深めていく。 ・クラスや学年の保育者間で話し合う時間を確保し、互いの保育観を共有して認め合いながら保育の方法を探る。 ・公開保育の重要性を認識し、公開する保育者の負担過多にならないよう、普段からの保育を見合う機会を増やす。 ・保護者に保育内容を更に知ってもらえるよう、写真配信の内容を検討し、遊びの過程や保育の意図が伝わるものにする。					